



と しょ 図書だより

かなづき
神無月
10月



令和6年10月

長岡京市立長岡第六小学校

図書通信

どくしょ あき なに よ 読書の秋に何を读もうかな？

「読書の秋」到来ですね。読書家としても知られる女優の芦田愛菜さん。現在大学2年生の芦田さんは、子役時代から空いた時間に本を読んでいるのが大好きで小学生時代は、年間300冊の本を読んでいたそうです。そんな愛菜さんが、16歳の時に映画『星の子』の完成試写会で「相手信じてること」について「その人自身を信じているのではなく、自分が理想とする、その人の人物像みたいなものに期待してしまっているということかな。だからこそ人は『裏切られた』とか『期待していたのに』とか言うけれど、それは、その人が裏切ったわけではなく、その人の見えなかった部分が見えただけ。それもその人なんだと受け入れられる『揺るがない自分』がいるのが『信じられること』なのかなと思います。でも『揺るがない自分』の軸を持つのはむずかしい。だからこそ人は、『信じる』と口に出して、成功した自分だったり、理想の人物像にすがりたいのではとコメント。当時「16歳とは、思えない卓越した語彙力！」と絶賛されました。まさに幼少期からたくさん本を読み続けた積み重ねから、視野の広さや物事を冷静に判断できる力、そして相手のことを意識して筋道を立てて伝える表現力を身につけられたのでは、ないでしょうか？読書の秋です！みなさんも空いた時間を見つけて図書室に来てくださいね！



あか はね きょうどう ぼ きんばこつく 赤い羽根の共同募金箱作りました！



9月の図書委員会では、社会福祉協議会の国増さんが来校され、赤い羽根の共同募金について学びました。お話を聞いた後に、班ごとに募金箱作りに取り組みました。出来上がった募金箱は、校区内のお店や施設に置かれる予定です。見かけたらぜひ募金のご協力をお願いします！



としよいいんかい かつどう 図書委員会の活動

4月からスタートした前期の図書委員会。休み時間の本の貸出、返却、整理等の日々の活動のほかに、6月に行った選書会では、準備や集計のお手伝いもがんばってくれました。また選書会で図書委員さんが選んだ本の紹介文を図書室の廊下に掲示しています。見てくださいね！前期図書委員のみなさん、おつかれさまでした！

10月 図書室カレンダー

月	火	水	木	金
9/30	10/1	2	3	4
7	8	9	11	12
14	15	16	17	18
21	22	23	24	25
28	29	30	31	11/1

○ 佐々木先生のいる日



あしだまな ほん 芦田愛菜さんのおすすめ本



『おいしいのぼうけん』 たびた せいいち／ふるた たるひ 〈童心社〉

お昼寝前に、ミニカーのとりにこでけんかをしたさととあきは、先生にしかられておいしいに入れられてしまいます。そこで出会ったのは、地下の世界に住む恐いねずみばあさんでした。ふたりをやっつけようと、追いかけてくるねずみばあさん。さて二人は、どうなってしまうの？

〈愛菜さんのコメント〉 3歳の頃に読んだのと印象がまるで変わってびっくり！



『若おかみは小学生』 わか しょうがくせい れいじょう こ こうだんしゃ 令丈 ヒロ子 〈講談社〉

6年生のおっこは交通事故で両親をなくし、祖母の経営する旅館“春の屋”に引きとられる。そこに住みつくユレイ少年・ウリ坊や、転校先の同級生でライバル旅館のあととり娘の真月らと知り合ったおっこは、ひょんなことから春の屋の“若おかみ”修業を始めることに。

〈愛菜さんのコメント〉 キラリと光る脇役が気になります！



『魔女の宅急便』 まじょ たつきゅうびん かどの えいこ 福音館書店

ひとり立ちした魔女の子キキが、新しい町ではじめての商売は？ 相棒の黒猫ジジと喜び悲しみをともにしながら、町の人たちに受け入れられるようになるまでの一年をさわやかに描いた物語。〈愛菜さんのコメント〉初めての土地で知らない人たちと暮らしてみるのにも懂れます。



『怪盗クイーンの優雅な休暇』 かいとう ゆうが きゆうか はやみね かおる 〈講談社〉

たまには休暇がほしいと、わがままを言うクイーンに、サッチモ社社長サッチモ・ウイルソンから、豪華客船ロイヤルサッチモ号による、12日間カリブ海クルージング、に招待したいという申し出があった。サッチモは10年前の因縁から、クイーンに恨みを抱いている。今回の招待も、その恨みを晴らすチャンスをとらせたこと。それは百も承知で、クイーンは招待を受けることにした。〈愛菜さんのコメント〉自由奔放で段取り上手なクイーンがうらやましいです！



『ふたり ㊦』 あかがわ じろう ポプラ社

お姉ちゃんは高校二年までしか生きなかつた。でも、私が来年高校一年になり、二年になり、三年になったら、私はお姉ちゃんの歳を追い越してしまう。死んだはずの姉の声が、突然、頭の中に聞こえてきた時から、千津子と実加の奇妙な共同生活が始まった。妹と17歳で時の止まった姉。二人の姉妹のほろ苦い青春ファンタジー。〈愛菜さんのコメント〉完璧な人間なんていないからコンプレックスはあって当然なのかも。



『まなの本棚』 あしだ まな 小学館

「本の出逢いは人との出逢いと同じ」年間100冊以上も読み、本について語り出したら止まらない愛菜さんが本当は教えたくない“秘密の約100冊”をご紹介します。世代を超えて全ての人が手に取ってみたく考える力をつけたい親御さんと子供たちにも必読の書です。